

(当テキストは決算説明会における説明を元に投資家の皆様の利便性を考慮して、要約としてまとめたものです。当日の説明を一言一句書きとめたものではありません。ご了承ください。)

P2「2012年3月期 通期決算 <概略>」

- ・ 通期の営業利益は180億円の赤字、当期純利益は約445億円の赤字となりました。当期純利益については、第3四半期決算時点の見通しからは若干改善しています。
- ・ 構造改革費用、東日本大震災、タイ洪水の影響、減損処理等の特殊要因を除くと、通期の営業利益は180億円の赤字から、550億円の黒字の営業益になります。加えて円高影響約150億円を除くと、実質は増収増益だったということになります。
- ・ 売上高は、震災・洪水の影響、欧州問題をはじめとした不安定な経済状況の中、新興国でのビジネスは好調で、全体としては為替影響を除くと1.2%の増収となりました。
- ・ 新製品投入、サービス事業拡大、新規事業の展開、構造改革など、中計の施策は予定通り進捗しています。
- ・ 2013年3月期は、構造改革効果、前年度の特殊要因の戻りなどにより、営業利益で700億円というV字回復を狙っています。不透明な経営環境を踏まえて売上高については、保守的な見通しとしています。
- ・ 2012年3月期の期末配当金は前回申し上げた通り8.5円、通期で25円とする予定です。2013年3月期は、年間25円を据え置きを考えておりますが、業績回復の確度が高まってきた場合は、増額も含めて検討したいと考えています。

P3「【補足】今回の決算における特殊要因について」

<新規連結会社影響>

- ・ ペンタックスリコーイメージングの連結影響は、半年間分として、売上高で150億円、営業利益への影響はありませんでした。

<タイ洪水の影響>

- ・ タイにあるリコーグループの生産拠点自体は被害を受けませんでしたが、部品を供給いただいている協力工場に多大な影響があり、一部の製品生産に影響が出ました。回復が期末ぎりぎりになったことで、3月末時点では受注残が残り、在庫も増加しました。これにより、売上高で77億円、営業利益で38億円のマイナス影響が出ました。

<構造改革費用>

- ・ 構造改革費用は、費用341億円、効果131億のネットで210億円の営業利益のマイナス要因となりました。見通しよりも少し前倒しで進めたこともあり、費用が若干増加しました。

＜長期性資産減損費用の計上＞

- ・ 長期性の資産減損費用計上について、第3四半期決算時に369億円と申し上げましたが、さらに精査した結果、370億円となりました。最終的には、第三者による減損テストを踏まえて多少の増減する可能性があります。内訳は、のれんで275億円それから長期性の資産で95億円となります。会計上の処理であり、キャッシュは動きません。

＜有価証券評価損の計上＞

- ・ 有価証券評価損の計上として、50億円営業外損益に計上しています。(前回と同じ)

＜繰延税金資産の減少＞

- ・ 法人税率の変更に伴って繰延税金資産を再計算いたしました。その結果、繰延税金資産が72億円減少してその分だけ法人税等が増加いたします。(前回と同じ)

＜子会社の決算期変更＞

- ・ 一部子会社の決算期を変更し、前年度の実績を遡及修正しています。これにより、全ての子会社が3月決算となりました。

P4「2012年3月期 損益計算書」

- ・ 売上高は、1兆9,034億円とマイナス2%、為替を除くと1.2%の伸びとなりました。
- ・ 営業利益は、構造改革費用、震災・タイ洪水影響、長期性資産の減損影響などを除くと、550億円となります。
- ・ 第3四半期の見通し比では、売上高、利益ともに達成しています。構造改革の効果が着実に出てきており、単なるコストカットではなく、プロセスを変えることによって利益率を高めるということが徐々にできてきているという自信を持ち始めています。

P8「2012年3月期 営業利益:前年比増減」

- ・ 2011年3月期の営業利益580億円から、2012年3月期にマイナス180億円となったことに対する要因分析になります。

＜販売増＞

カラーMFP、プロダクションプリンティング、MDS(マネージドドキュメントサービス)、ITサービスといった高付加価値商品、役務の提供を含むノンハード売上の増加により、136億円の粗利増となりました。

<製品原価低減>

震災・洪水影響で部品費のコストアップなどもあり、前回見通しでは50億円を見込んでおりましたが、36億円に留まりました。

<研究開発費>

様々な新製品投入もあり、対前年で84億円増加しました。前回見通しからは、約40億円増加しました。

<その他経費>

33億円の経費が減少し、増益要因となりました。

<為替影響ネット>

149億円のマイナスとなりました。内訳は粗利で365億円の減益と、215億円の販管費減少とのネットになります。

この為替影響までで、営業利益は550億円となります。

<構造改革費用ネット>

費用341億円と効果131億円のネットで210億円の減益要因となりました。

<震災&タイ洪水影響>

震災影響112億円、洪水影響38億円のネットで150億円の減益要因となりました。前回見通しに対しては、25億円の減少(増益要因)となりました。

<減損費用>

為替影響により、前回の369億円から370億円に変更いたしました。

P6「参考◇ 2012年3月期業績補足」

<営業利益>

第2四半期に構造改革費用、第3四半期に構造改革費用と減損などの一時費用が入っており、それらの費用が軽くなった第4四半期は189億円の黒字となりました。

<販売費および一般管理費>

構造改革費用などの一時費用を除くベースでは、着実に削減が続いています。

P7「2012年3月期 製品別売上高」

- ・ 製品別売上高は、第4Qに向けて伸びてきており、画像&ソリューションの伸びが特に堅調。
- ・ 製品としては、LPが大手一括商談などにより伸びています。
- ・ プロダクションプリンティングは、去年の上期に発売したカラーのカットシート機を中心に非常に好調に推移しています。
- ・ ネットワークシステムソリューションは、売上高が1989億円と、2桁近い伸びが続いております。
- ・ 産業分野は、景気の影響を受け、PCBや電子デバイス事業などが不調です。
- ・ その他分野については、ペンタックスが加わったことで、売上高が増加しました。

P8「画像&ソリューション分野」

- ・ 年間の利益は562億円でしたが、構造改革や減損などの一時的な費用を除くと1381億円となります。
- ・ 四半期別に見るとQ3に減損費用が含まれています。Q4は、堅調に回復しています。
- ・ 事業構造の変化として、プロダクションプリンティング、MDSの構成率が上がってきています。
- ・ ハード・ノンハードについては、第3四半期をボトムにしてハードウェアの成長率が回復してきており、それに伴ってノンハードが好調を維持しています。
- ・ MFPは、先進国での伸びは鈍化していますが、プロダクションプリンティング、プリンター等は先進国でも着実に成長を続けています。

P9「産業分野／その他分野」

- ・ 産業分野／その他分野については、厳しい結果となりました。

<産業分野>

- ・ 構造改革費用等が入っており営業利益はマイナス17億円。しかし、第4四半期は、構造改革の効果により8億円の黒字と上向き始めてます。

<その他分野>

- ・ 12年3月期は、コンパクトのデジカメの影響が一番大きくマイナス60億円。ペンタックスについては、利益影響はありません。
- ・ その他分野には、カメラだけでは無く新規ビジネスも入っています。新規事業の先行投資として、Q2に約15億円、Q4に10億円が入っています。
今後も、デジカメを含め、更なる収益改善に取り組んでいきます。

P10「地域別売上高」

<日本>

2011年3月期第4四半期の震災影響から徐々に回復してきており、2012年3月期第4四半期は大きく売上高を伸ばすことができました。

<米州>

全般的に景気低迷が続いていましたが、後半は震災や洪水の影響による物不足により、売上高の前年比減が続きました。

<欧州>

市場の伸びに比べて、リコーの伸びは小さかった。政府系の商談を中心に政府関係は締めているので厳しいが、ソブリン問題を抱えているラテン系の国でも、ソリューションとかTCOなどインフラ関係の良い提案を行えば、採用いただけています。残念ながら2011年度は欧州で少しシェアを落としたので、2012年度は、アメリカ同様にシェアを奪回したいと考えています。

<その他地域>

経済は引き続き堅調です。特に、アジアパシフィックは、2桁以上の利益率をキープしながら20～30%の売上成長を続けています。しかしながら、規模が他の地域と比べるとまだまだ小さく、引き続き利益を出しながら成長させていきたいと思えます。

P11～P12「所在地別のセグメント」

<日本>

四半期毎に見ると第2四半期に構造改革費用、第3四半期に減損影響があり、通期で赤字となっていました。しかしながら、第4四半期は、黒字であることはもちろんのこと、BPRが着実に進展している実感を得ました。

<米州>

第4四半期はわずかではありますが、黒字になりました。2012年度は通期での黒字化を達成していきたいと考えています。

<欧州>

シェア低下など苦戦はしましたが、利益の状況はそれほど悪くはありません。

<その他地域>

減損の影響で第3四半期のみが凹んでおりますが、順調です。3月はバックオーダーを抱えながらも、この業績にとどまっていますので2012年度は利益拡大を期待できます。

P13「参考◇17次中計主要戦略の進捗状況」

- ・ MFPのシェアナンバーワンを維持するために、以下のような新製品を発売しています。

A3カラーMFP: 4機種(日本2月発売、海外4月発売予定)

A3モノクロMFP: 5機種(日本1月発売、海外12月発売)

A4モノクロMFP: 2機種(海外: 11月発売)

- ・ プロダクションプリンティングについては、ライトプロダクション向け製品を11年6月に発売しましたが大変好評です。リコープロダクションプリントソリューションズを昨年4月に発足しリコーとの組織統合を進めました。
- ・ 新興国市場での事業成長を実現するために、ローエンドA4のMFP6機種、A4のLPを7機種発売しました。ベトナムで昨年11月に販売会社を設立し、順調に動き始めています。
- ・ 新規事業は、まだ利益には貢献していませんが、コア事業の拡大に寄与できると考えています。特にプロジェクションシステムは大変評判がよく、超短焦点を2機種(11月)、スタンダードを2機種(1月)、ハイエンドを2機種(1月)に発売し、フルラインアップ化をしました。ユニファイドコミュニケーションシステムはネットを使ったテレビ会議システムです。LEDも7月に発売し、この1月以降に拡大し始めました。早晩利益に貢献してくると思います。
- ・ CRGP推進による体質改造についてですが、日本国内で希望退職者の募集を実施しました。2011年の実績は、人数は2,340名、費用は247億円。13年度までには1万人規模の削減はやり切りたいと思っており、予定通り進んでます。

P14「連結貸借対照表(1)」

<資産の部>

- ・ 棚卸資産についての一番の問題は、バックオーダーの問題です。12月より棚卸資産はかなり減ってはいるものの、昨年の3月と比べると、増えています。
- ・ 回転期間の2.03は一時的なものだと思いますが、さらに在庫を圧縮し、圧縮した上で、震災や洪水のように、何かあった時にも、しっかりと対応できる仕組みをつくっていかねばいけないと考えています。
- ・ 総資産は、前期比と比べると337億円増えてます。総資産回転率0.84と前期末と同じくらいでした。できるだけ1.0のレベルに近づけていきたいと思っています。

P15「連結貸借対照表(2)」

<負債及び資本>

- ・ 有利子負債と手元流動性とネットした数字が5,831億円ということで、膨らんでおります。この3月に社債償還200億円などがありました。全部償還し、新たに調達をしております。
- ・ ネット・デット・イェクイティ・レシオは、前期末から当然ながら悪化しております。これは2012年度の業績改善にて改善していきたいと思っております。

P16「連結キャッシュフロー計算書」

- ・ 1,012億のフリーキャッシュフローのマイナスになってます。利益、在庫、事業の買収により、キャッシュアウトが続きました。第4四半期はキャッシュインになりました。

P18「2013年3月期損益計算書見通し」

- ・ 売上は1兆9,200億円。為替前提はドルは75円、ユーロは105円ということで、コンサバティブに見ています。一時的に今、円安にふれておりますが、これで何とか利益を出そうということで動いています。
- ・ 比較的売上高は伸びない、為替をあわせると国内で1.6%、海外で4.8%グローバルで3.4%増という、売上増を計画しております。まだまだ、市場は不透明であり売上はあまり積んでいない計画となっております。営業利益は、構造改革費用などはなくなり、売上も伸びるということで、700億円を見込んでいます。
- ・ それに伴いまして、税前提利益は625億円、純利益は330億円ということになります。
- ・ 構造改革は継続し、この2013年度3月期は費用250億円見込んでます。一方、効果は350億円を見込んでおり、ネットでは100億円の増益効果が出ると見込んでおります。
- ・ 研究開発費は2012年3月期について、20億円だけ減らしておりますが、ほぼ2011年度増えた状態をそのまま維持しています。
- ・ 設備投資は、東北にあるトナー工場の新しい増設を行います。我々としては、東北復興の一助にもなると考えています。また、これからたくさん出る新製品の型代なども増えています。

P19「2013年3月期営業利益見通し:前年比増減」

- ・ 2012年3月期の営業利益マイナス180億円から2013年3月期の営業利益700億円に至る増減チャートです。
- ・ 減損費用が無くなった分が370億円(一番左)。
- ・ 震災・洪水の影響の減少を見込んでいます。空輸などの費用がなくなる分として100億円。構造改革のネットは、441億円。441億円のネットの内訳は、前期の費用が無くなる分が341億円。今期に使う費用が250億円。今期使って出てくる利益は350億円で、全部出して441億円となります。つまり341億円+100億円です。
- ・ 販売増によって、100億円の増益効果。これは、保守的に見えています。
- ・ 原価低減については、前年実績36億円のところを50億円としています。これは、タイ洪水等でコストアップになったものを取り戻して、50億円ここで改善したと思っています。
- ・ 以上のような要因によって、2013年3月期の営業利益700億円。880億円の増益を目指しています。

P20「2013年3月期 分野別売上高見通し」

- ・ 分野別の売上高の見通しは、20ページに書いてる通りです。

P21「配当金&ROE推移」

- ・ 2008年3月期までは配当性向30%を狙って増配してきました。2008年の世界金融危機以降、366%という大変な大きさになるなど、高い配当性向が続いていましたが、2013年3月期は最終赤字ということで減額させていただきました。
- ・ 構造改革の成果がきちんと出てきたことが確認できたら、また増額も視野に入れていきたいと思えます。